

衛星企業3社との協業
～人工衛星画像を活用した保険金支払いの高度化の取り組み～

東京海上日動火災保険株式会社(取締役社長 広瀬 伸一、以下「東京海上日動」)は、人工衛星画像の分析技術に強みを持つ3社との協業により、保険金の支払いを高度化する取り組みを開始しますので、お知らせします。

衛星企業3社との協業およびアビームコンサルティング株式会社(本社:千代田区丸の内、代表取締役社長 鴨居 達哉、以下「アビームコンサルティング」)との連携により、様々な種類の人工衛星画像を取得することができ、大規模な水害が発生した際に、お客様に迅速に保険金をお支払いする体制の構築が可能となります。

1. 背景

近年の自然災害の大規模化や多発化を受け、被害に遭われた多くのお客様へいち早く損害保険金をお支払いし、安心をお届けすることが、保険会社に求められています。

特に台風や豪雨といった水害による被害はこの数年間で増加しており、損害保険会社は、水害の被害に対して、デジタルテクノロジーも活用しながら、迅速な保険金支払いに取り組む必要がありました。

当社はアビームコンサルティングと共に、2018年から人工衛星で撮影された画像を活用した保険金支払いの取り組みを実施してきましたが、この度その取り組みをより高度化するために、新たに人工衛星画像の分析技術に強みを持つ3社との協業を開始することといたしました。

2. 今回の動き

当社は新たに以下の3社の衛星企業と協業し、人工衛星画像を活用した保険金支払いの高度化を目指す取り組みを開始いたします。

<新たに協業する衛星企業>

企業名	所在地	特徴
ICEYE	フィンランド Maarintie 6, 02150 Espoo	SAR 衛星を自社で保有しており、SAR 画像(※1)の高度な解析技術を有しています。
株式会社パスコ	東京都目黒区東山一丁目1番2号 東山ビル	可視光画像(※2)をはじめとした情報による総合的被災判読に強みがあります。
三菱電機株式会社	東京都千代田区丸の内二丁目7番3号	ALOS-2(※3)をはじめとする SAR 衛星開発の知見を活用した画像解析技術を有しています。

(※1) SAR 画像・・・衛星画像の種類の一つ。夜間や雲に覆われた場所でも撮影できるレーダー画像です。

(※2) 可視光画像・・・衛星画像の種類の一つ。雲や地表面によって反射された太陽光を観測した画像です。

(※3) ALOS-2・・・陸域観測技術衛星 2 号(だいち 2 号)。災害時の状況把握等を目的に宇宙航空研究開発機構(JAXA)が整備した SAR 衛星です。

<取り組みの概要>

人工衛星画像の分析技術を持つ3社(ICEYE、パスコ、三菱電機)と協業し、水害が発生した際に、各社のネットワークにより様々な種類の人工衛星画像を当社が取得します。取得した複数の画像と、当社のお客様データ(所在地や物件情報など)を組み合わせ、AI が分析を行うことで、水害の被害の範囲や浸水高を迅速に把握することができます。

当社はこれまでも、取得した人工衛星画像を AI が分析し、水害の被害状況・範囲の把握等に活用してきました(※4)が、新たに3社と協業を実施することで、より広い範囲かつ迅速に多くの人工衛星画像を取得でき、これまで以上に精緻な被害範囲・浸水高の算出が可能となります。

本取り組みの全体推進から分析シナリオの策定、業務における効果検証については、AI を活用した災害対策支援実績やデジタルテクノロジーに関する知見を有するアビームコンサルティングによる支援を受けながら、進めてまいります。

(※4)2018年11月21日

(ニュースリリース)人工衛星画像を活用した水災時の保険金支払いに関する取り組み

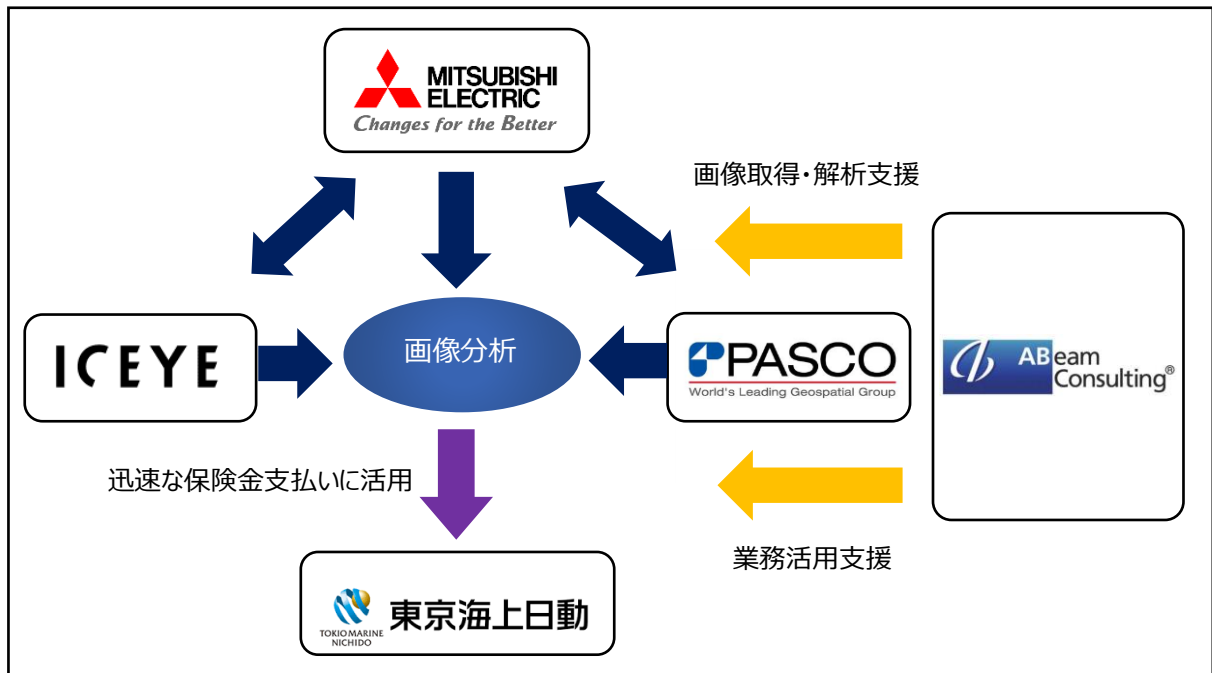
https://www.tokiomarine-nichido.co.jp/company/release/pdf/181121_01.pdf

<効果>

複数の企業から多くの人工衛星画像を取得することで、水害被害が発生してから最短数時間程度で水害被害の範囲と浸水高を把握することができます。また浸水高については、数センチ単位での把握が可能となり、より精度の高い分析結果を取得することができます。

大規模な水害の被害では、これまでお客様に保険金をお支払いするまでに平均2~3週間程度を要していましたが、今回の取り組みによりお客様にお支払いするまでの期間を大幅に短縮することが期待できます。

<連携イメージ>



以上